

心といのちを守る

シンポジウム

ひろしま2012

入場無料
(事前申込制)

日時 **2012年** **9月1日** (土)
13:00~16:20

場所 **アステールプラザ**
中ホール
(広島市中区加古町4-17)

交通アクセス




■JR広島駅からの交通手段
市内電車 宇品行(紙屋町経由)「市役所前」下車(600m)
江波行「舟入町」下車(400m)
バス 広島バス 24番路線 吉島営業所行または
吉島病院行「加古町」下車(200m)
タクシー 約15分
※ 公共交通機関をご利用ください。

■主催／広島市、広島市教育委員会
■共催／文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」
■運営協力／社会福祉法人広島いのちの電話
■後援／広島県、広島県医師会、広島市医師会、広島県精神科病院協会、
広島県精神神経診療所協会、広島弁護士会、広島司法書士会、広島労働局、
広島産業保健推進センター、広島商工会議所、広島県中小企業団体中央会、
広島市社会福祉協議会、広島市民生委員児童委員協議会、広島県臨床心理士会、
広島県看護協会、日本精神科看護技術協会広島県支部、広島県精神保健福祉士協会、
広島いのちの電話、広島市精神保健福祉家族会連合会、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、
テレビ新広島、広島エフエム放送、ふれあいチャンネル、ひろしまケーブルテレビ

プログラム


- 受付開始／12:00~
- 開会・あいさつ／13:00~13:05
- 講演〔13:05~15:15〕

1 〔13:05~13:45〕
テーマ／**知っておくべき うつ病の知識と対応**
講師／**野村 総一郎 氏**
防衛医科大学校病院 病院長
防衛医科大学校 精神科 教授




野村 総一郎 氏

2 〔13:50~14:30〕
テーマ／**見逃されている 双極性うつ病**
講師／**加藤 忠史 氏**
理化学研究所 脳科学総合研究センター
精神疾患動態研究チーム シニア・チームリーダー
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」
プログラムオフィサー



加藤 忠史 氏

3 〔14:35~15:15〕
テーマ／**ここまでわかった うつ病の脳内メカニズム**
講師／**山脇 成人 氏**
広島大学大学院 医歯薬保健学研究院
精神神経医学 教授
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」
課題Fうつ病等研究チーム 拠点長



山脇 成人 氏

●パネルディスカッション・質疑応答〔15:25~16:20〕

テーマ／**うつ病の早期発見・早期治療に向けて**
パネリスト／**野村総一郎氏、加藤忠史氏、山脇成人氏**

お申込方法等、詳しくは裏面をご覧ください。

※ このチラシは、再生紙を利用しています。

平成10年以降、わが国の年間自殺者数は毎年3万人を超えています。広島市でも、自殺で亡くなる方が14年連続で200人を超えており、深刻な社会問題となっています。

自殺を図った人の多くは、うつ病等の精神疾患にかかっているといわれており、うつ病の早期発見・早期治療は、心の健康の守ることはもちろん、自殺の予防にもつながります。

私たち一人一人がうつ病や自殺について正しく理解し、自分自身や身近な人の心の不調にいち早く気づいて適切な対応を行うことが、かけがえのないいのちを守るための第一歩です。

心といのちを守る

シンポジウムひろしま2012

ここまでわかった
うつ病

日時 2012年9月1日(土) **場所** アステールプラザ 中ホール
13:00~16:20 (広島市中区加古町4-17)

講師のプロフィール

野村 総一郎 氏

防衛医科大学校病院 病院長
防衛医科大学校 精神科 教授

1949年、広島生まれ。1974年、慶應義塾大学医学部を卒業、米国留学等の後、藤田保健衛生大学精神医学教室助教授、国家公務員等共済組合連合会立川病院神経科部長を経て、1997年から防衛医科大学校教授。2012年、防衛医科大学校病院の病院長に就任。

うつ病に関する著書は、「多様化したうつ病をどう診るか」(2011、医学書院)、「うつ病の事典」(2011、日本評論社(共著))、「入門うつ病のことがよくわかる本」(2010、講談社)、「うつ病一正しく知って治す(別冊NHKきょうの健康)」(2008、NHK出版)等、専門家向けから一般向けまで多数。TV出演時のわかりやすい解説にも定評がある。

日本うつ病学会理事、日本精神科診断学会理事、日本神経精神薬理学会理事、うつ病の予防・治療日本委員会理事など、諸学会等の要職を務め、うつ病の正確な理解と治療に向け、第一線で取り組んでいる。

加藤 忠史 氏

理化学研究所 脳科学総合研究センター 精神疾患動態研究チーム シニアチームリーダー
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」プログラムオフィサー

1963年、東京生まれ。1988年、東京大学医学部を卒業後、滋賀医科大学精神医学講座助手を経て米国留学。帰国後、東京大学医学部精神神経科助手、同大学講師を経て、2001年、理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チームのチームリーダーに就任。現在、広島大学大学院医歯薬保健学研究院の客員教授も兼ねる。

双極性障害(躁うつ病)の原因解明と診断法・治療法の開発に向け研究を進めており、著書も「双極性障害 病態の理解から治療戦略まで」(2011、医学書院)、「躁うつ病とつきあう」(2008、日本評論社)、「躁うつ病はここまでわかった」(2007、日本評論社)等多数。

文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」プログラムオフィサーであり、我が国における脳科学研究を先導するほか、国際双極性障害学会理事を務めるなど、国内外において双極性障害(躁うつ病)の研究を牽引するスペシャリストである。

山脇 成人 氏

広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 精神神経医学 教授
文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」課題Fうつ病等研究チーム 拠点長

1954年、広島生まれ。1979年、広島大学医学部を卒業、米国留学等を経て、1990年、広島大学医学部神経精神科学講座教授に就任。現在、広島大学副理事も兼ねる。

昨年、所属する研究グループが、世界で初めてうつ病の客観的診断指標の候補を発見。これまでうつ病は、気分の落ち込みや意欲低下などの症状を基に診断されていたが、血液検査、脳機能検査等により客観的な診断指標が得られるようになると期待されている。

文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」のうつ病等研究チーム拠点長であり、日本学術会議連携会員、国際神経精神薬理学会理事長、日本うつ病学会理事など、諸学会等の要職を務める。また、広島市うつ病・自殺対策推進協議会会長、広島県自殺対策連絡協議会会長も兼務。市民・県民の心の健康対策に尽力している。

平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(研究部門)受賞。

申込方法

【FAXの場合】記入欄に必要事項をご記入のうえ、送付先FAX番号にお送りください。

【電話・Eメールの場合】申込希望の旨と申し込まれる方のお名前・電話番号・FAX番号を、広島いのちの電話事務局にお知らせください。※電話での申し込みの場合、月~金曜日(9:00~17:00)の受付となります。

※ 申込多数の場合、会場の都合により先着順となりますので、あらかじめご了承ください。

(特に連絡がない場合は、希望どおりご参加いただけます。)

※ お預かりした個人情報は、このシンポジウムの連絡用のみ使用します。

参加申込書 送付先FAX082-221-6778

氏 名

電話番号

FAX番号

お申し込み・お問い合わせ / 広島いのちの電話事務局

電話の場合
TEL082-221-3113

FAXの場合
FAX082-221-6778

Eメールの場合
hll@go2.enjoy.ne.jp